

第3学年2組 社会科学習指導案

指導者 藤本 大貴

- 1 日 時 令和4年6月10日（金）13：10～14：00
- 2 単 元 名 太平洋戦争の始まり
- 3 学 習 空 間 情報検索ルーム
- 4 単元（題材）について

(1) 2016年以降、選挙権が18歳以上に引き下げられた。昨年10月に行われた衆議院議員選挙における投票率は全体で55.93%だったのに対し、10歳代が43.21%、20歳代が36.50%、30歳代が47.12%と若い世代が平均を大きく下回っている。総務省の調査では、「なぜ選挙に行かないのか」という問いに対し「選挙にあまり関心がないから」（19.4%）や「投票所に行くのが面倒だったから」（16.1%）、「自分のように政治のことがよく分からないものは投票しない方がよいと思ったから」（10.7%）、「私1人が投票してもしなくても世の中は変わらないと思ったから」（9.7%）などと、政治や選挙に対して無関心で人任せにするような意見が過半数を超えた。なお、日本の投票率は世界198か国中147位で、上位41か国は80%を超えている。

また日本のように若者の投票率が低いと、政治家は当選するために、高齢者向けの政策を優先し、若い世代の意見や希望が政治に反映されなくなってしまふ。若者の半数以上が政治に対して無関心な現代の日本が、果たして民主主義国家として正しく機能しているか疑問である。今後の民主主義社会を支える生徒たち若い世代が、社会への帰属意識をもち政治に主体的に参加することが国の重要課題であると考ええる。

本単元では、死者300万人（日本側）の凄惨な戦争がどのように始まったのかに注目していく。第一次世界大戦後から慢性的な不況に悩まされていた日本は、世界恐慌以後深刻な不況に直面した。これを打開するために満州事変を起こし、資源の豊富な大陸へと進出していく。その過程で五・一五事件、二・二六事件などを経て軍国主義化していく。1937年に中国と戦争状態に入る（日中戦争）も中国の抵抗により泥沼化する。この原因である援蔣ルートへの遮断と新たな資源獲得のため、日本軍は仏領インドシナへの進駐を始める。この動きを警戒したアメリカ合衆国が日本に対して石油の輸出を全面禁止した。このときアメリカが日本に提示した条件は、満州事変より前のアジア秩序に戻すことである。これはそれまでの10年間、日本が国家予算の7割もお金と、20万人の兵士の尊い命を失ってまで獲得したものを全て放棄するというに他ならない。当時、アメリカとの国力差はおよそ80倍。軍幹部は、アメリカとの戦争を避けようと日米交渉に臨んだ。しかし、最終的な結論が出ることなくアメリカとの交渉は失敗に終わった。

当時の軍幹部は「アメリカの要求を受け入れれば、世論がこれを許さない」と主張している。実際に国民がアメリカとの戦争を歓迎している様子や一般市民の日記が残っている。しかし、1941年の世論調査で国民の過半数が「日米開戦は避けられる」と回答している。この過半数の国民の声は果たして届いていたのだろうか。

今回、太平洋戦争は一部の為政者が独断的に始めたものではなく、決断しきれなかったが故に起きたものだとすることを捉えなおしたい。そして決断しきれなかった背景に世論があったこと、ただその世論も一部の声であったという点から、たとえ多数派の意見であっても、それが為政者に届かなければ、他の意見にかき消されてしまうと捉えなおしたい。そうすることで民主主義の負の面に気づき、どういう社会をつくっていくべきかという、新たな見通しを獲得するのに有効であると考ええる。また、学習指導要領における「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」につながるとも考える。投票率が低い今の日本の現状も踏まえ、戦争を二度と起こさないために、政治に主体的に参加することの意味を見出して欲しい。

(2) 本学級は男子16名、女子19名の合計35名である。生徒にアンケートをとり (N=34)、戦争はなぜ始まるかを聞いた所、「国民」や「世論」といった言葉は出ず、「国どうしの利害関係」(類答含む)が約47%、「政治家、軍人のプライド」(類答含む)が約29%となった。そこで生徒の学習前の題材(太平洋戦争の始まり)に対する「当たり前」を「太平洋戦争は軍人あるいは天皇など一部の偉い人の独断で始まった」と設定した。アンケートには当時の「世論」について言及した生徒はおらず、本題材を通して「少数派の世論が間違っ為政者に届いていたこと」から民主主義の負の面について、語り直しさせたいと考えている。

(3) 本単元(題材)を指導する(個の「ものがたり」を深める)にあたって、次の点に留意したい。

- ・ 前時の歴史ログ(毎時間の授業での気づきや自己の考えを記すノート)の記述や現代的感覚で考える授業中の生徒の発言、素朴な疑問を取り上げ、現在と過去、自分と他者などの考えのズレに出会わせ、生徒の思考にそった学習課題(中心の問い)を設定する。そうすることで、生徒が受け身ではなく、主体的に歴史認識を獲得することにつながる。
- ・ 歴史的事象に対して互いの考えを語り合う場面(本単元では6時間目)で、これまでの単元の学びを1枚にまとめた資料を配布し、単元で学んできたことや資料を暗記せずとも振り返られるようにする。また語り合いの土俵をそこに書かれてあることに限定することで、資料にもとづいて互いに問い合い探究する空間づくりにつなげる。

5 本単元の目標

(1) 本単元の「ものがたりの授業」構想図

『ものがたりの授業』

★**授業者**のねがい(授業を通して生徒に期待する成長や変容)

政治に主体的に参加するようになってほしい

●**題材**(太平洋戦争の始まり)に対する「ものがたり」の変容

(学習前)

戦争は絶対にしてはいけないもの。平和が一番。

探究的な学び
他者と語り合う

(学習後)

戦争をするかしないかの判断は悩ましい。すごく難しい決断だと思う。

《(授業者が考えた)単元学習後の「振り返り」例》 *「自己に引きつけた語り」部分
太平洋戦争は軍人が暴走して起こったものだと思っていた。満州事変以来、軍国主義化してしまった日本が、国力に大きな差のあるアメリカと戦っても勝てないのに、どうして戦争をしたのか、疑問に思っていた。私は日本を守るためにアメリカの要求をのんで中国から撤兵すべきだと思った。当時のリーダーたちがまさかアメリカとの戦争を避けようとしていたとは思ってもいなかった。それでも戦争になったのは、結論を出し切れない日本の政治システム。そしてその背景にあった当時の世論の高まり。ただそれさえも過半数に満たない一部の声であっ


た。戦争を避けられると考えていた人の意見が為政者に伝わっていなかった。

この学習を通して学んだことは、人の命を守るために、自分の意見を発信していかなければならないということだ。現在の投票率は低すぎる。大人になったら必ず選挙に行きたいと思う。今自分ができるとするなら、SNSに投稿することや18歳になったら選挙について投票することだ。よく考えもせずに周りに合わせていたり、黙ったままでいたりすると、いつかそれが戦争となって私の前に降ってくるかもしれない。それが今回の学びだ。平和な未来のために、声をあげられる人間になりたい。

(2) 本単元で育成する資質・能力

<p>知 識 技 能</p>	<p>・我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>・太平洋戦争の始まりを考える中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国の政治・外交の動き ○ 開戦前の国民生活 <p>について、諸資料をもとに理解できる。</p>
<p>思 考 判 断 力 表 現 等</p>	<p>・歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて光世に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p>	<p>・我が国の政治・外交の動きや開戦前の国民生活等の視点から、日本を守るために、日米交渉でのアメリカの要求を受け入れるか否かをそれまでの既習事項や資料にもとづいて論理的に説明できたり、議論できたりする。</p>
<p>学 び に 向 か う 力 人 間 性 等</p>	<p>・歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。</p>	<p>・太平洋戦争がどのように始まったかを主体的に追究していく中で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アメリカとの戦争を避けようとした軍人の奔走の姿 ○ 戦争を強く支持した世論 <p>などについて理解を深め、そのことを通して我が国の歴史に対する愛情や国民としての自覚を深めるようとする。</p>

(3) 単元構成 (全6時間)

時間	学習課題 (中心の問い) と◆学習内容	生徒の思考・反応・振り返り
1	<p><u>(学習課題) 1930年代に起きた農村の危機とは?</u></p> <p>◆世界恐慌以後、各地の農村で欠食児童や女子の身売りなどといった貧困が深刻であったことを知り、その原因を考える。</p> <p>★①資料1 農村の苦しい生活の様子</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>これは当時の日本の農村の様子です。なぜこうなったかという・・・</p> </div>	

資料2 1929年以降の米価の推移
資料3 1929年以降の繭価の推移



繭価のほうが値段の回復が遅いのは、1931年に起こった事件が関係しています。

2

(学習課題) なぜ生糸の値段は下がったままなのか？

◆満州事変について、そのあらましと日本が満州を狙った経緯を知る。また、満州国を政府が認めなかったため、五・一五事件が起こったことを知る。



すでに植民地を持っているのに、日本はなぜ満州も狙ったのでしょうか？

資料4 当時の日本領の主な資源採集地
資料5 当時の中国の主な資源採集地



政府はこの満州国設立を認めませんでした。



満州事変自体が、関東軍による自作自演からです。

◆満州国の承認をめぐる、海軍の青年将校が首相を暗殺する(五・一五)事件が起こったことを知る。

◆国際社会が満州国を認めない中、国際連盟を脱退した結果、日本が国際的に孤立したことを知る。

3

(学習課題) なぜ五・一五事件の首謀者たちは軽い罪で済んだのだろうか？

◆五・一五事件の首謀者たちがなぜ軽い罪で済んだのか考える。



クーデタを起こして、懲役13年～15年、この罪を軽い？重い？

資料6 大正～昭和初期にかけての政治家の不祥事



日本は結局のところ、軍事予算を増額し、国家予算の7割を軍事費に使うようになりました。

米よりも生糸のほうが、値段の回復が遅いなあ。



台湾や朝鮮だけでは足りないからじゃない？



日本の資源が少ないのは知っていたけれど、朝鮮や台湾も全然取れないのか。



満州は国内の貧しい農民の移民先にもなるのか。(★②)



えー！そうなの？



軍の単独行動だったのか…。それにしてもひどいなあ。



えー、そこまでは？



軽い。



なるほど、政治家の不祥事続きで内閣は軍に何も言えなかったのかあ…



資料7 当時の国家予算の内訳

資料8 主な国の鉱工業生産



こうして発言権を高めた軍部主導で日中戦争が始まっていきます。

4

(学習課題) 日中戦争勃発！なぜ中国は抵抗し続けた？

◆日中戦争が起こり、当初日本は優勢だったが、中国がアメリカの支援を受け、首都陥落後も抵抗を続けたことで、戦争が泥沼化していくことを知る。



日中戦争が始まりました。日本軍は早々と首都南京を攻略しますが、戦争は終わりません。

資料9 1931年からの中国における兵の死者数



南方に植民地を持つイギリスやアメリカが、支援をしていたんです。(援蔣ルート)



そうです。そのため、日本は1941年6月にフランス領インドシナへ軍を送りますが、ここでアメリカから通告を受けます。

資料10 アメリカからの最後通告

5

(学習課題) アメリカの要求を受け入れる？受け入れない？

◆日米交渉におけるアメリカの要求受け入れの可否について、単元の資料に基づいて考え、ノートに記入する。



アメリカが日本に突きつけた条件をもう一度おさらいしましょう。「満州事変よりも前の形に戻す」とはどういうことでしょうか？



あなたがもし軍のリーダーの立場なら、どちらを選びますか？

資料11 日本の残りの石油備蓄量

しかも、軍事品の生産で日本経済はむしろ復活していたのか。(★③)



となると、その援蔣ルートを遮断しにいくのか？



石油全面輸出禁止！やばい！



日中戦争をやめて中国から撤兵するってことかな？



ということは、また景気が悪くなるぞ。農村の生活は貧しいままだね。



6
(本時)

(学習課題) アメリカの要求を受け入れる？
受け入れない？

◆日米交渉におけるアメリカの条件受け入れの可否について、単元の資料に基づいて議論する。



実際の話、当時のリーダーたちはどうして要求を受け入れなかったんでしょうか？

★④資料 12 軍幹部の対米戦争への考え



実際は先程の議論の結論は出ないまま、時間切れになりました。

資料 13 大日本政府連絡会議の仕組み
◆当時の日本軍の指揮系統が決定者不在で撤兵するかどうかが決められなかったことを知る。



★⑤ちなみに当時、最終決定者に一番近かった人物は昭和天皇です。天皇はこう思っていたようですよ。

★⑤資料 14 昭和天皇独白録



世論が沸騰する、とはどういうこと？

★⑥資料 15 当時の世論調査



過半数の国民の意見は、昭和天皇に届いていたといえるのかな？

撤兵したら、これまで通り石油を輸出してくれるのだから受け入れたほうが良い。



でも満州事変よりも前の形に戻さないといけないなら、日本の農民は貧しいまま。むしろ自分たちで石油をとったほうがいい。



アメリカとの戦争になればさらに多くの人が死んでしまう。戦争は絶対に良くない。受け入れるべき。



それだと農民は貧しいままで、欠食児童や女子の身売りはさらに増える。戦って勝てる可能性があるかもしれないからそれにかかるべき。



リーダーは勝てると思っていたんじゃない？



え、アメリカとの戦争を避けようとしたのに受け入れなかったの？



じゃあ、なぜ受け入れなかったの？





え！国民が戦争をのぞんでいたということ！？



届いていなかった、ということか……



	<p>これを見て皆さんはどう考えますか？</p> <p>★⑦資料 16 2020年10月の衆議院議員選挙の投票率</p>	 <p>今の日本も本当の国民の意見が本当に通っているとは言い切れないな。</p>
---	--	---

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・ 日米交渉におけるアメリカからの条件受け入れの可否について、資料に基づいて考え、表現することができる。
- ・ 「太平洋戦争の始まり」の単元全体を通して、現代の日本の政治の課題について、捉えなおすことができる。

(2) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	○教師のかかわり・★しかけ
学習課題：アメリカの要求を受け入れる？受け入れない？		
<p>1 学習課題について単元の学びにもとづいて語り合う。(同質4人→全体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分はなぜそう考えたか、資料や学んだ歴史認識をもとに考え直している。 ・ 自己の考えと相手側の考えの根拠について検討している。 	<p>○ 考えの根拠を明確に確認していくことで、相手の意見を聞くだけでなく、互いに問うたり、答えたりできるようにする。</p>
<p>立場 S1、S3、S5：受け入れる S2、S4、S6：受け入れない</p>		
<p>T：では、考えを。どうですか？はい、S1さん、どうぞ。</p> <p>S1：僕は受け入れるべきだと思います。なぜなら受け入れさえすれば、石油を元通り輸出してくれるようになるからです。</p> <p>T：なるほど。今の意見を聞いて受け入れない派の人、どうですか？</p> <p>S2：僕は受け入れないほうが良いと思います。満州事変よりも前の形に戻すということは、日本は農村が貧しいころに戻ってしまう。これまで何のために軍事費の7割という大金や20万人以上の兵士の命を犠牲にしたのかわからない。</p> <p>S3：アメリカとの差を考えたとき、それ以上の被害が出るかもしれません。ここは受け入れるべきだと思います。</p> <p>S4：ここで受け入れると、アメリカの力に押されて諦めた形になる。日本はこれからほかの国にも舐められるのでは？</p> <p>T：受け入れる派のさん、S5 どうですか？</p> <p>S5：でも、アメリカに適うはずが無いし、多くの人々が亡くなるのが分かっている、戦争を選ぶのは間違っていると思います。</p> <p>S6：でも受け入れたところで、貧しい生活は変わらないので、農民のことを考えると勝てる可能性が少しでもあるなら戦争するしかないのでは？</p> <p>T：実際の話、このあと日本はアメリカとの戦争に突入します。当時のリーダーたちはなぜ要求を受け入れなかったの？</p>		

<p>2 どういう条件になれば逆の立場を受け入れるか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れない側は満州さえあれば受け入れる、と考える。 	
<p>3 当時の結論は「時間切れ」だったことを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当時の結論は「時間切れだった」ことを知り、驚く。 	<p>★ 結論を出せなかった＝軍が独断で始めたわけではないことを気付かせ、生徒の当たり前とのズレを生む。</p>
<p>4 当時、最高責任者に最も近かった昭和天皇が当時どのように考えていたか知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昭和天皇が恐れていたのは国民のクーデタという事実を知り驚く。 	<p>★ 「世論が沸騰する」とはどのようなことか問い、国民が戦争を望んでいたことに気づかせる。</p>
<p>5 当時の世論調査の結果から分かることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先程までの国民の意見は過半数に満たないものだというのに気づき、さらに驚く。 	<p>★ 戦争を回避できると考えていた国民の意見が、昭和天皇まで届いていたといえるか、問う。</p>
<p>6 本時を振り返り、太平洋戦争の始まりについて、語り直し、現代日本の政治の課題について捉え直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 太平洋戦争の始まりについて、意味や価値を捉え直している。 	<p>★ 2020年10月の衆議院議員選挙の投票率を見せ、現在も約半数の国民の意見が政治に反映されていないことに気付かせる。</p>

7 見取り

- 日米交渉におけるアメリカからの条件受け入れの可否について、資料に基づいて考えられているかをノートと単元終了後のレポートで見取る。
- 「太平洋戦争の始まり」の単元全体を通して、現代の日本の政治についての捉えなおしがあるか、単元終了後のレポートから見取る。